

門池北部地区 事後評価シートの公表について

- (1) 事後評価の目的・内容
- (2) 事後評価スケジュール
- (3) 都市再生整備計画の内容
- (4) 目標を達成するために計画に位置付けた事業
- (5) 指標の達成状況の確認
- (6) 今後のまちづくり方策の検討

- **事後評価の目的**

まちづくり交付金では、交付期間終了後の効果の持続や次のまちづくりへ展開を図るため、①まちづくり目標に対する達成状況を確認したり、②効果発現の要因を整理して
③今後のまちづくり方策を検討することとしています。

- **事後評価の内容**

- ①まちづくり目標に対する達成状況の確認

まちづくりの目標の達成状況および実施過程の検証を行う。

- ②効果発現要因の整理

成果と実施過程について、それぞれの評価結果に至った要因の整理を行う。

- ③今後のまちづくり方策の検討

事業の実施によって得られた効果・影響、ならびに事業実施過程を通して得られた知見を活かして、これからのまちづくりの方向性を検討する。

各評価項目の計測・
確認方法を設定

■方法書の作成（作成済み）

■事業の成果及び実施過程の検証

まちづくりの目標の
達成状況等を確認

①成果の評価

都市再生整備計画に示したまちづくりの目標の達成状況を検証

②実施過程の評価

結果に至るまでのチェック状況やまちづくり体制等の実施過程を検証

③効果発現要因の整理

成果に至るまでのプロセスや原因を総合的に分析

今後のまちづくりを
検討

④今後のまちづくり方策の作成

社会資本整備総合交付金の効果を持続するためのまちづくりの方針や施策、事業等
を検討

⑤事後評価原案の公表

調査結果を住民に公表し、意見がある場合は適切に反映

⑥評価委員会の審議

第三者により構成される沼津市事業評価監視委員会で、事後評価全般にわたる評価作業の適切さを確認

評価結果をチェック

⑦評価結果のまとめ（事後評価シートの完成）

⑧評価結果の公表と国への報告

<結果公表>

平成23年4月

～

平成24年4月予定

評価が見込みの場合、
改善策を実施した場合
に、改めて目標の達成状
況を確認

■フォローアップの実施

(1) 都市再生整備計画の内容

1-1 門池北部地区の課題及び目標

都市再生整備計画策定時の「まちの課題」及び計画を実施することによって達成すべき「まちづくりの目標」は、以下の通りになります。

計画策定時の課題

- 地形的な条件から、東西へ往来する道路が極端に少なく、住民の生活に不便をきたしている。
- 地区内の生活道路は旧来からの道路が大半を占め、地形的な条件から急勾配な箇所や鋭角な交差点など見通しの悪い箇所や幅員の狭い狭隘道路が多く、交通安全性が問題となっている。
- 排水路が未整備である箇所が多く、大雨時の雨水の大量流出が地区南側に被害を及ぼすことがある。

目標

大目標

良好な居住環境の形成

- 土地区画整理事業により都市基盤整備を行い、狭隘道路の解消、土地利用の向上による良好な居住環境を創出する。
- 地域生活基盤施設、調整池の整備を行い、災害の不安を解消し、安全に暮らせるまちを形成する。

(1) 都市再生整備計画の内容

1-2 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標

都市再生整備計画では、目標が達成したかについて数値指標を用いて評価を行います。

目標

狭隘道路の解消、土地利用の向上による良好な居住環境の創出

災害の不安の解消による安全に暮らせるまちの形成

目標を定量化する指標

指標1: 4M以上の道路の整備率

従前値	28	%	H18年度
目標値	60	%	H22年度

指標2: 公園へ歩いて行ける区域の割合

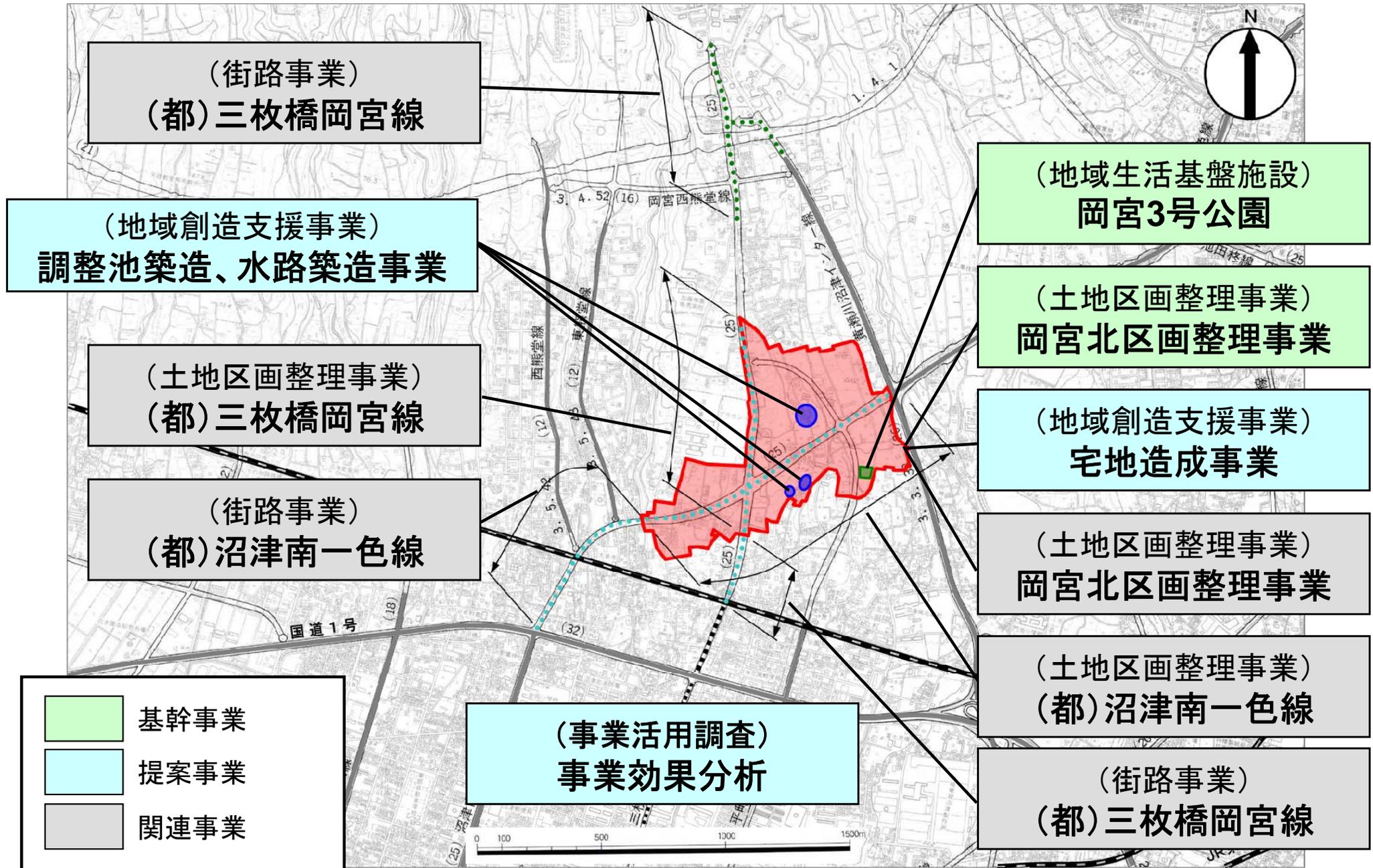
従前値	0	%	H18年度
目標値	20	%	H22年度

指標3: 土地利用率の向上度

従前値	36	%	H18年度
目標値	80	%	H22年度

—— 目標と指標の相関性大 - - - - 目標と指標の相関性小

(2) 目標を達成するために計画に位置づけた事業



(2) 目標を達成するために計画に位置づけた事業

岡宮北区画整理事業



岡宮北区画整理事業



岡宮北3号公園



岡宮北区画整理事業



調整池築造、水路築造事業



(3) 指標の達成状況の確認

3-1 目標を定量化する指標の達成状況の確認

都市再生整備計画に記載した3つの指標について、目標値を達成したか評価を行います。（事後評価実施時点で平成22年度の値が出ていないものについては「見込み値」として、過去の傾向等から評価を行います。）

指標		従前値	目標値	評価値	達成度
指標1	4M以上の道路の整備率	28%	60%	55% (見込み値)	△
指標2	公園へ歩いて行ける区域の割合	0%	20%	21% (確定値)	○
指標3	土地利用率の向上度	36%	80%	66% (見込み値)	△

※ 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

(3) 指標の達成状況の確認

3-2 その他の数値指標による効果の発現状況の確認

前記の指標以外にも、事業実施による効果を確認するため、又は目標未達成の指標を補完するため、「その他の数値指標」を設定し、評価を行います。

	指標	従前値	評価値	取り上げる理由
その他の数値指標1	緊急車両の到着時間	5.0分	3.5分 (見込み値)	<p>地区の安全性が向上していることについて、緊急車両の到着時間を計ることで、指標1の補完を行う。</p>
その他の数値指標2	新規住宅着工数	83戸	189戸 (見込み値)	<p>土地区画整理事業及び宅地造成事業によって整地された宅地が有効に活用されているかを計ることで、指標3の補完を行う。</p>

4-1 まちの課題の変化の確認

事業を実施したことによって、計画策定時点の課題がどのように変化したか、また、新たな課題が発生していないか確認を行います。

計画策定時の課題	まちの課題の変化	
	達成した課題	残された課題
居住環境の向上に係る課題	<ul style="list-style-type: none">・土地区画整理事業及び関連事業等の実施によって、宅地の整形化、区画道路の整備、東西を連絡する道路の増加、街区公園の整備等がはかられ、居住環境が向上し、新規住宅の着工が進んだ。	<ul style="list-style-type: none">・宅地や区画道路、東西を連絡する道路、街区公園等に未整備な箇所がある。
まちの安全性の向上に係る課題	<ul style="list-style-type: none">・土地区画整理事業及び関連事業の実施によって一部の急勾配な箇所、鋭角な交差点等の見通しの悪い箇所、狭隘道路が解消され、交通安全性が高まった。・調整池及び水路を整備したことによって、地区内の安全な排水が可能となった。	<ul style="list-style-type: none">・急勾配な箇所、鋭角な交差点等の見通しの悪い箇所、狭隘道路がまだ地区内に残っている。・下流域に影響を与えないように引き続き治水対策を行っていく必要がある。・災害時の一時避難場所に未整備な箇所がある。
	新たに発生した課題	
コミュニティの醸成に係る課題	<ul style="list-style-type: none">・土地区画整理事業の実施によって、新規住民が増加しているため、既存の住民との、又は新規住民同士のコミュニティ形成をはかっていく必要がある。	

(4) 今後のまちづくり方策の検討

4-2 今後のまちづくり方策の検討

「指標の達成状況」、「まちの課題の変化」等の結果を受けて、来年度以降のまちづくりの進め方の検討を行います。

まちづくりの方向性	今後のまちづくり方策
居住環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・整備した道路や公園等について、適切な利用、管理が行われるように住民主体の組織による活動の実施を促す。 ・引き続き土地区画整理事業等を実施することで、街路、区画道路、公園等の整備を行い、居住環境の向上をはかる。
まちの安全性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・整備した道路が安全に使われるよう、また災害への備えを行うため、住民意識の向上をはかる。 ・区画道路、調整池等の整備を実施することで、まちの交通安全性及び防災性を向上させ、安心して暮らせるまちをつくる。
コミュニティの醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・地区センターや公園等の地域住民の交流拠点を整備することで、地区のコミュニティの醸成をはかる。